

液状化対策の 福島交番開所

署初
山警
岡県

南海トラフ巨大地震に備え、県警が県内で初めて液状化に強い工法で整備した岡山南署福島交番（岡山市南区立川町）の開所式が12日、現地で行われた。交番（鉄骨平屋約100平方メートル）は、揺れを3分の1以下に低減

液状化に強い工法で整備された福島交番の開所式



できるという「WIB工法」を採用。液状化を防ぐため、敷地に約180本の柱（直径80センチ、長さ4〜2メートル）を蜂の巣状に埋め込んで地盤を強化した。建物を支えるくい（長さ20メートル）も9本打ち込み耐震性をアップ。津波に備え、休憩室やパソコン室を地面から1・6メートル高くした。総工費は5400万円。式には地元住民ら約

30人が出席。兼光良典署長が「万一に備え災害に強い構造にした。安全で住みよい地域づくりの拠点とすべく、全力を傾注したい」とあいさつし、出席者が内部を見学した。県によると、旭川河口に近い干拓地。南海トラフ地震での揺れは最大震度6弱

好評開催中

第1R「朝とくガア〜コ戦」実施中!

日刊スポーツ杯

場外発売 大村

GI海の王者決定戦

で、液状化の危険性は極めて高い。津波は1メートル30センチが想定される。手狭になった旧交番（同築港新町）を約700坪北東の福島小東隣に移転させ、3月9日から業務を開始している。（宮本慶一）

■本社HPに動画